最賃 人勧 生活できる賃金を！

「最賃引き上げろ！」とハンガーストライキに起ち上がった仲間と座り込み行動（7月27日・大阪労働局前）

「生活できる賃金に引き上げろ！」「最賃は時給1000円に」「人事院はマイナス勧告をするな！」と組合員の切実な要求をかかげて、大阪自治労連はこの夏、大阪労連、大阪公務共闘とともに、宣伝、署名、座り込み、集会を繰り広げました。

大阪自治労連結成20周年記念 ボウリング大会

24チーム96人の代表が熱戦・交流

「出てこいやぁ、大阪ナンバーワンボウラー」をスローガンに大阪自治労連結成20周年記念ボウリング大会が7月31日（土）に大阪ミナミの千日前ファミリーボウルで開催されました。大会に向けて18単組で予選が行われ、1150人が参加。大会当日は17単組から、24チーム96人の代表選手と、家族・応援団が集まり、にぎやかに熱戦を繰り広げ、交流しました。（上位入賞者を6ページに掲載しています）

めざせ！ナンバー1（ワン）ボウラー

ストライクが連発！ハイレベルの大会となりました

みごと！ナンバーワンボウラーに輝いた横井享さん（吹田市職労）

自治労連 おおさか自治体の仲間

発行：大阪自治労連（大阪自治体労働組合総連合） 2010年8月15日 No.259

〒530－0041 大阪市北区天神橋1－13－15大阪グリーン会館4F ☎06－6354－7201 FAX06－6354－7206
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp
URL:http://www.osaka-jichiroren.jp

発行人／前田 仁美 編集人／久保 貴裕
1990年9月12日第3種郵便物認可
毎月15日発行（1部10円）組合員の購読料は組合費に含まれています。

市民をしっかり援助できる 元気な職場でありたい

左から清水さん、浦田さん、宮川さん

寝屋川市職労職員支部

浦田 紀子さん（保健師）
宮川 倫子さん（保健師）
清水亜佐子さん（発達相談員）

（寝屋川市立保健福祉センター・健康増進課）

保健師として働いて15年目の浦田さん。「職員が足りず、子どもの見方にも慣れていなくて、仕事が大変な時期がありました」と振り返ります。「もう限界です…」と子育てに悩む母親の市民から長時間の電話に応じたり、健診の事務処理に追われて施錠時刻の夜10時まで残業する日も少なくありませんでした。疲労はピークに達し、職場では仕事を辞めていく人も。「その時、組合の力がないと職場は変えられない、と思って市職労に加入しました」

職場は今でも人員不足。当局に実態を訴えて人員増を求めています。訪問で担当地域を回っていると、以前相談にのっていた人が声をかけてくれたり、健康教室を案内するチラシの配布に協力してくれる人があらわれるなど、地域のつながりもつくってきました。

相手のアンテナに思いが届くように

宮川さんは以前、病院で看護師として働いていたとき、病気を持った子どもたちを看て「子どもの発達について何も知らない自分に気づいた」と言います。「地域で子どもに関わる仕事がしたい」と思い、勉強して市の保健師になって2年。「仕事はがむしゃらになって、空中でジャブを打っているみたいに感じるときもありますが、相手の良さを引き出せるような相談ができればと思っています。相手のアンテナに自分の思いが届くように、謙虚に学んでいきたいです」と抱負を語ります。

一回一回の健診を大切にして

発達相談員のベテランである清水さんは、この4月に障害児通園施設から異動になったばかり。子どもたちにじっくりと関わってきた施設とは違い、次々と健診に訪れる市民に20分程度の時間で対応しなければなりません。「異動して、面から点へと仕事が変わったような感じです。一回一回の健診を大切にして、見落としがないように、しっかりサポートしていきたいです」と語ります。

虐待を未然に防げる体制を

職場ではいま、児童虐待の予防が重要な仕事になっています。「けっして片手間ではできません。十分な時間をとって対応できる体制が必要です」と浦田さん。今年、寝屋川市でおこった不幸な事件は、どこの市町村でも起こりえます。6月に開催した衛都連職場職種別交流集会の保健所・保健センター分科会では、虐待を未然に把握して、早期に対応できるように仕事や職場体制のあり方について討論を深めました。「支援する私たちが元気でなければ、市民をしっかりと援助できません。大阪自治労連の公衆衛生部会でも、ネットワークを広げて、健康で働ける職場をつくっていきたいです」と語ってくれました。